

中小企業診断士
第二次試験合格対策講座

2025年 第二次試験事例Ⅳ

財務・会計を中心とした
経営の戦略及び管理に関する事例

解答・解説集

MMC

Master of management corporation

模 範 解 答

第1問(配点 25 点) (設問1)

	(a)	(b)
①	自己資本比率	82.13(%)
②	売上高総利益率	35.85(%)
③	有形固定資産回転率	1.85(回)

(設問2)

要因は、①高価格仏壇で差別化を図るものの、競争激化による売上低下や原材料高騰での低収益性、②海外向け商品製造の機械設備や直営店舗などの資産の低い効率性等がある。

第2問(配点 30 点) (設問1)

①	480 (基)	
②	720 (基)	
③	(a)	691,200,000 (円)
	(b)	1P (パッケージ) は、製品Xを2基、製品Yを3基とする。 損益分岐点P数 $= \text{総固定費} / 1P \text{ 貢献利益}$ $= 480,000 / (370 \times 2 + 420 \times 3) = 240P$ 損益分岐点売上高 $= X \text{ 価格} \times X \text{ 数量} \times P \text{ 数} + Y \text{ 価格} \times Y \text{ 数量} \times P \text{ 数}$ $= 600 \times 2 \times 240 + 560 \times 3 \times 240 = 691,200 \text{ 千円}$

(設問2)

(a)	947 (基)	
(b)	目標達成限界利益 $= \text{総固定費} + \text{目標利益}$ $= 520,000 + 50,000 = 570,000 \text{ 千円}$ Y必要総限界利益 $= \text{目標達成限界利益} - X \text{ 総限界利益}$ $= 570,000 - (600 - 230 \times 1.05) \times 500 = 390,750 \text{ 千円}$ Y必要販売数量 $= Y \text{ 必要総限界利益} / Y \text{ 限界利益}$ $= 390,750 / (560 - 140 \times 1.05) = 946,1259 \approx 947 \text{ 基}$	

(設問3)

①	500 (基)	
②	1,500 (基)	
③(a)	408,750,000 (円)	
③(b)	新製品X販売量 = x、新製品Y販売量 = y とする。 製品X新貢献利益 $= 600 - 230 \times 1.05 = 358.5$ 製品Y新貢献利益 $= 650 - 140 \times 1.05 = 503$ 直接作業時間年間上限 $0.5x + 0.3y \leq 700$ 総販売量数量制限 $x / (x + y) \geq 0.25 \rightarrow y \leq 3x$ 総利益最大 (x, y) は、(500, 1500) となる。 総利益額 $= 358.5 \times 500 + 503 \times 1500 - 525,000 = 408,750 \text{ 千円}$	

第3問(配点 25 点)(設問1)

(a)	4,200,000 (円)
(b)	売却による CF = 売却額 × (1 - 税率) 6,000,000 × (1 - 0.3) = 4,200,000 円

(設問2)

(a)	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期
	10,620,000 (円)	19,620,000 (円)	19,620,000 (円)	32,820,000 (円)
(b)	第 1 期税引後利益 = 売上 - 変動費 - 現金固 - 機会費用 - 減価償却 = (90,000,000 - 36,000,000 - 30,000,000 - 2,400,000 - 15,000,000) × (1 - 0.3) = 4,620,000 円 第 1 期 CF = 税引後利益 + 減価償却費 - 運転資本の増加額 = 4,620,000 + 15,000,000 - 9,000,000 = 10,620,000 円 第 2・3 期 CF = 税引後利益 + 減価償却費 = 4,620,000 + 15,000,000 = 19,620,000 円 第 4 期 CF = 税引後利益 + 減価償却費 - 特別利益 + 運転資本回収額 + 設備売却額 = 8,820,000 + 15,000,000 - 6,000,000 + 9,000,000 + 6,000,000 = 32,820,000 円			

(設問3)

(a)	13,868,220 (円)
(b)	正味現在価値 = -投資額 + 第 1 ~ 4 期 CF 合計正味現在価値 = -60,000,000 + 10,620,000 × 0.962 + 19,620,000 (0.925 + 0.889) + 32,820,000 × 0.855 = 13,868,220
(c)	採用 (する) ・ しない

第4問(配点 20 点)(設問1)

D社は、自己資本比率が高く長期安全性が高いため、①支払利息による節税効果が得られる長期借入金や、②調達コストが不要な内部留保の活用、などの資金調達が望ましい。

(設問2)

財務リスクは、為替リスクである。対処は、①ユーロ建て為替予約、②プットオプション等を活用し、為替の変動リスクを回避する。

事例概要

2025 年度の事例Ⅳの出題内容は、経営比率分析、CVP分析（セールスマックス・線形計画法）、投資の経済性計算、資金調達、財務リスク管理の記述問題である。2024 年度の問題と比較すると、経営比率分析の財務指標は選びやすく、投資の経済性計算の問題は難易度が低くなり、全体的な難易度は若干低くなったものの、時間的に全て対応できるとは言い難い問題構成であった。合格点を確保するために、①第1問の経営比率分析で確実に得点する。②難易度が比較的低い計算問題をミスなく解答する。③計算問題の正解を導けなくても計算過程を分かりやすく書き部分点を確保する。④記述問題は題意が求める要素を漏れなく解答に書く。以上の4点が重要であることは例年通りであった。

第1問は、経営比率分析の問題である。同業他社比較で、優れている指標を1つ、劣っている指標を2つ挙げて、劣っている点の要因を述べることが求められた。出題の内容はこれまでと同様であり、財務指標の選定で迷うことは少ないと考えられ、対応は比較的容易であった。一方で、記述については、要因を的確に指摘することが求められた。

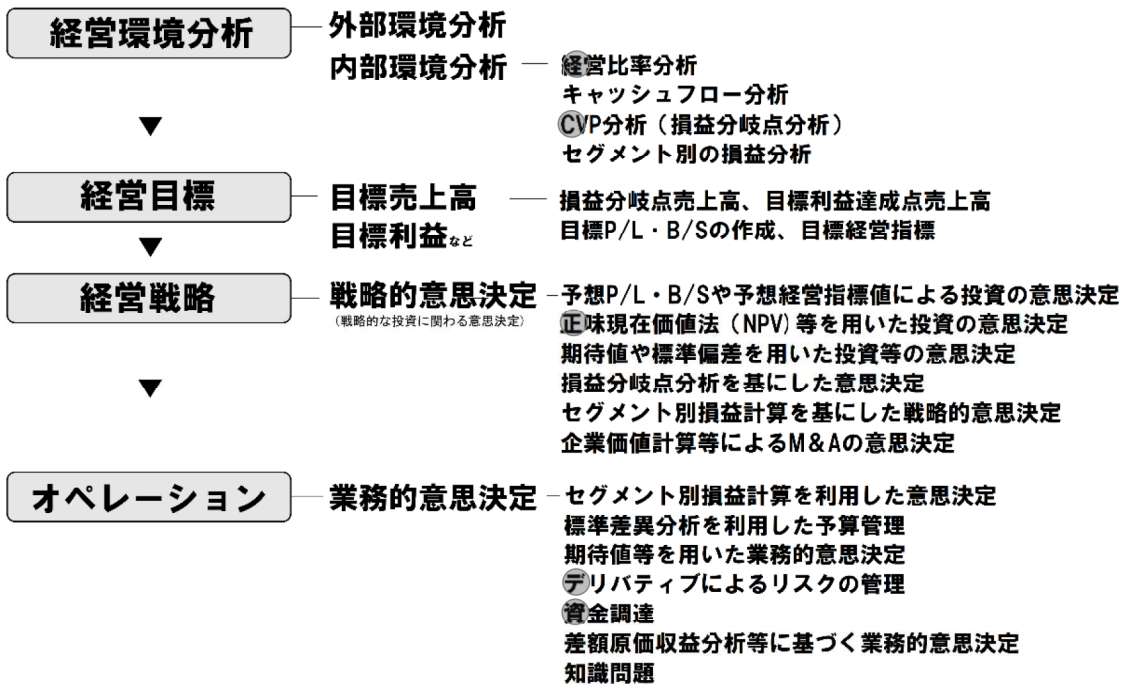
第2問は、セールスマックスを含めたCVP分析の問題である。（設問1）はセールスマックスの単純な計算問題で、何とか正解を導きたい問題であった。（設問2）は次年度における制約条件の変化に適切に対応することが求められた。（設問3）は線形計画を使ったセールスマックスの問題で、問題文の条件設定を正しく読み取ることが難しい問題であった。

第3問は、投資の経済性計算と期待値計算の複合的な問題である。（設問1）は設備の売却に関するキャッシュフローを求める問題で、必ず正解したいサービス問題であった。（設問2）は各年のキャッシュフローを算出する問題で、計算量はそれほど多くはないものの、機会費用と運転資本を正確に計算できるかがポイントであった。（設問3）は正味現在価値を計算する問題で、ここでは計算ができていなくても計算過程と結論は必ず書いて得点したい問題であった。

第4問は、（設問1）はD社の海外向け製品の生産ライン増設に対する資金調達手段について財務状況を踏まえて理由とともに記述する問題であり、（設問2）はEU諸国に販売する場合に直面する財務リスクと対処について記述する問題であった。題意の正しい理解と事例文のヒントの活用に加えて、一次知識も必要な記述問題であった。昨年度より難易度はやや低く、何とか解答を書き切り得点を獲得したい問題であったと考えられる。

解 答 メ モ

MMC 合格設問 F C (フローチャート・体系図) 財務



- 第 1 問 : 経営比率分析
- 第 2 問 : セールスマックス分析・CVP分析 (線形計画法)
- 第 3 問 : 正味現在価値 (NPV) と期待値計算を用いた投資の意思決定
- 第 4 問 : 資金調達・デリバティブによる財務リスク管理

第1問(設問2) ⇒80 字

設問の要求事項 ⇒経営分析

D社が同業他社と比べて劣っている点を指摘

要因について財務指標から読み取れる経営戦略上の違いを指摘

解答のポイント

①D社の経営戦略上の他社との違い

②売上高総利益率

③有形固定資産回転率

キーワード準備 ⇒差別化戦略 収益性低下、効率性低下とその要因

解答の型

要因は、

①～～など〇〇

②～～など〇〇

等である。

解答のキーワード

切口	因（説明文）	果（キーワード）
戦略上の違い	高価格仏壇	差別化
収益性	競争激化による売上低下 原材料高騰	収益性低下
効率性	海外向け商品製造の機械設備 直営店舗	効率性低下

解答の文章化

要因は、

①高価格仏壇で差別化を図るものの、競争激化による売上低下や原材料高騰での低収益性、

②海外向け商品製造の機械設備や直営店舗などの資産の低い効率性

等がある

第4問(設問1) ⇒80 字

設問の要求事項 ⇒資金調達

D社がとるべき資金調達手段について、財務状況を踏まえながら、理由とともに述べることを求めている。

解答のポイント

財務状況：安全性が高い

キーワード準備⇒外部金融と内部金融より検討

解答の型

D社は、～なため、

①～なため〇〇

②～なため〇〇

などの資金調達が望ましい。

解答のキーワード

切口	因（説明文）	果（キーワード）
財務状況	自己資本比率が高い	長期安全性が高い
外部金融	支払利息による節税効果が得られる	長期借入金
内部金融	調達コストが不要	内部留保の活用

解答の文章化

D社は、

自己資本比率が高く長期安全性が高いため、

①支払利息による節税効果が得られる長期借入金や、

②調達コストが不要な内部留保の活用、

などの資金調達が望ましい。

第4問（設問2）

⇒60 字

設問の要求事項

⇒デリバティブによる財務リスク管理

D社が新商品をEU諸国に向けて販売する場合に直面する財務的リスクと具体的な対処。

解答のポイント

財務的リスク⇒キーワード準備：為替リスク

EU諸国への輸出：ユーロ建て為替予約・プットオプション

解答の型

財務リスクは、〇〇リスクである。

対処は、①～による〇〇、

②～による〇〇である。

解答のキーワード

切口	因（説明文）	果（キーワード）
財務リスク		為替リスク
対処①	ユーロ建て	為替予約
対処②	ユーロ建て	プットオプション

解答の文章化

財務リスクは、為替リスクである。

対処は、

①ユーロ建て為替予約、

②プットオプション等を活用し、

為替の変動リスクを回避する。

解 答 解 説

第1問(配点 25 点)

Step1 題意

(設問1) D社と同業他社の財務諸表を用いて経営分析を行い、同業他社と比較してD社が劣っていると考えられる財務指標を 3 つ取り上げ、名称を示し、指標値を計算することを求めている。

(設問2) D社が同業他社と比べて劣っている点を指摘し、その要因について財務指標から読み取れる経営戦略上の違いを指摘しながら 80 字以内で述べることを求めている。

Step2 解答の考え方・導き方

経営分析を行なう場合、特に重要となる指標は次の通りである。

利益率	回転率	安全性
①売上高経常利益率	①棚卸資産回転率	①自己資本比率
②売上高営業利益率	②固定資産回転率	②固定長期適合率
③売上高総利益率	③有形固定資産回転率	③流動比率
④販売管理費比率	④売上債権回転率	④当座比率
⑤売上高人件費比率	⑤仕入債務回転率	

通常はこの中から経営指標を選択し解答すれば分析は可能である。しかし、中小企業診断士 2 次試験の経営比率分析の問題では、指標の数値を算出した後には、「説明」が要求されるケースが殆どである。このため経営指標は、事例文を参考にしながら、この事例にあった具体的な説明ができる指標を選択したい。

Step3 解答の具体的展開方法

決算書は、日ごろの経営活動・営業活動の結果・成果を表わしている。このため、決算書上に現れる長所・短所等の原因は、事例文に記されることが多い。このため、事例文をヒントにして経営指標を考えていくことが短時間合格点確保解答記述のコツである。続いて(設問 2)の解答も書きやすくなる。事例文には次のヒントが記されており、そこから以下の指標が導き出せる。

	事例文・設問文ヒント	問題点経営指標
活動性	- 自社開発による現代風の新たな商品を展示販売する直営店舗の小売部という 3 部門から構成される職能別組織を採用している。 - 職人による手仕事と機械による製造とのバランスに苦慮している。	- 棚卸資産回転率 - 有形固定資産回転率 - 固定資産回転率
収益性	- D社は低価格仏壇との差別化を図っている。 - 伝統的な大型仏壇の売れ行きが低下し続けている。 - さらに、木材や漆などの原材料価格も高騰してきており、D社では利益計画の見直しも課題となっている。	- 売上高総利益率 - 売上高原価率 - 売上高経常利益率

安全性	今回、安全性に関するヒントは、事例文や設問文中にはない。 このような場合は、貸借対照表から得られる情報をもとに重要な問題点(経営指標)を抽出する。(設問 2)の説明についても、事例文などにヒントとなる与件がない場合は、貸借対照表から得られる情報をもとに解答していく。
-----	--

主な経営指標と指標値

	指標名	算出式	D社	同業他社
安全性	自己資本比率	$\frac{\text{自己資本(純資産)}}{\text{総資本}} \times 100\%$	82.13(%)	65.88(%)
	負債比率	$\frac{\text{負債}}{\text{自己資本(純資産)}} \times 100\%$	21.76(%)	51.80(%)
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本+固定負債}} \times 100\%$	61.60(%)	81.21(%)
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}} \times 100\%$	62.03(%)	93.67(%)
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100\%$	283.67(%)	159.47(%)
	当座比率	$\frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}} \times 100\%$	91.70(%)	70.33(%)
収益性	売上原価率	$\frac{\text{売上原価}}{\text{売上高}} \times 100\%$	64.15(%)	37.56(%)
	売上高総利益率	$\frac{\text{総利益}}{\text{売上高}} \times 100\%$	35.85(%)	62.44(%)
	販売・管理費比率	$\frac{\text{販売・管理費}}{\text{売上高}} \times 100\%$	34.34(%)	54.86(%)
	売上高営業利益率	$\frac{\text{営業利益}}{\text{売上高}} \times 100\%$	1.51(%)	7.58(%)
	売上高経常利益率	$\frac{\text{経常利益}}{\text{売上高}} \times 100\%$	3.02(%)	7.70(%)
活動性等	棚卸資産回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{棚卸資産}}$	4.27(回)	5.88(回)
	固定資産回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{固定資産}}$	1.35(回)	1.91(回)
	有形固定資産回転率	$\frac{\text{売上高}}{\text{有形固定資産}}$	1.85(回)	11.79(回)

※貸借対照表中に「その他流動資産」の記載があった場合は、内容が不明確なため、当座資産に該当しないものとする。

合格点・高得点のポイント

- ①合格点確保のポイント：問題点の分析を行う場合には、「数値が上がった、下がった」「〇〇ポイント高まった、下がった」といった評価ではなく、「なぜそうなったのか」といった原因や、「つまり、どういう状況なのか」と明記していきたい。
- ②合格点確保のポイント：少ない字数で問題点を指摘する場合は、事例文のヒントか

ら重要なキーワードを簡潔に引用した上で、事前に準備している指標の視点に応じた分析のキーワードを活用して因果関係が伝わる記述を心掛けたい。ただし、安全性に関しては、事例文中にヒントが記されているケースは少ないため、貸借対照表から得られる情報から判断する。

- ③高得点確保のポイント：挙げた経営指標の算出式を思い浮かべ、分母と分子の勘定科目を切り口にして説明すると、モレがなく、分かりやすい説明ができる。また、①～、②～、③～のナンバリングも、分かりやすい解答を書く上で重要である。

第2問(設問1)・(設問2)・(設問3) (配点 30 点)

Step1 題意

- (設問1) 損益分岐点売上高、損益分岐点における製品 X 及び製品 Y の販売数量を求めている。
- (設問2) 次年度は変動費、固定費が上昇する予測の下で、製品 X を 500 基販売するものとして、目標利益額を達成するための製品 Y の販売数量を求めている。
- (設問3) 製品 Y のモデルチェンジに伴う販売価格、個別固定費が変化する。与えられた、直接作業時間と販売割合の条件の下で、利益が最大となる製品 X と製品 Y の販売数量とそのときの利益額を求めている。

Step2 解答の考え方・導き方

- (設問1) 一定のセールス・ミックス（販売量構成比）を前提とした C V P 分析の問題である。まずは、資料を整理し、単位当たり限界利益を計算する。

製品 X：製品 Y → 2：3（数量ベース）／1P（パッケージ）

（単位：円）

	製品 X	製品 Y	1P（X2 個、Y3 個）
販売個数 1P	2	3	
販売価格	600,000	560,000	2,880,000
変動費	230,000	140,000	880,000
限界利益	370,000	420,000	2,000,000
個別固定費	45,000,000	35,000,000	80,000,000
共通固定費	400,000,000		

1 パッケージ売上高 = $600,000 \times 2 + 560,000 \times 3 = 2,880,000$ 円

1 パッケージ限界利益 = $370,000 \times 2 + 420,000 \times 3 = 2,000,000$ 円

損益分岐点パッケージ数

= 総固定費 / 1P 限界利益

= $(80,000,000 + 400,000,000) / 2,000,000 = 240$ P

損益分岐点製品 X 個数 = $240 \times 2 = 480$ 基

損益分岐点製品 Y 個数 = $240 \times 3 = 720$ 基

損益分岐点売上高

= 1 P 売上高 × 損益分岐点 P 数

= $2,880,000 \times 240 = 691,200,000$ 円

(設問2)

次年度は変動費が 5%、固定費が 10%上昇する予測の下で、製品 X を 500 基販売するものとして、目標利益額 50,000 千円を達成するための製品 Y の販売数量を求めている。

条件変化後製品価格等まとめ

(単位: 円)

	製品 X	製品 Y	目標利益達成後
販売個数	500	? ②	算出不要
販売価格	600,000	560,000	算出不要
変動費	241,500	147,000	算出不要
限界利益	358,500	413,000	算出不要
限界利益 (目標個数)	179,250,000	? ①	算出不要
個別固定費	45,000,000	35,000,000	80,000,000
共通固定費	440,000,000		
目標利益	50,000,000		

目標達成限界利益

＝総固定費＋目標利益

＝80,000,000＋440,000,000＋50,000,000　＝570,000,000 円

製品 Y 必要総限界利益

＝目標達成限界利益－製品 X 総限界利益

＝570,000,000－179,250,000　＝390,750,000 円　→ ? ①

製品 Y 必要販売数量

＝製品 Y 必要限界利益／製品 Y 総限界利益

＝390,750,000／413,000　＝946,1259　≒**947 基**　→ ? ②

(設問3)

次年度は製品 Y をモデルチェンジに伴い、販売価格 650 千円、固定費 5,000 千円になる。製品 X は総販売数量の 25%を下回らないこととし、年間 700 時間の直接作業時間以内で、製品 X 0.5 時間／基、製品 Y 0.3 時間／基という条件の下で、利益が最大となる製品 X と製品 Y の販売数量とそのときの利益額を求めている。

条件変化後製品価格等まとめ

(単位: 円)

	製品 X	製品 Y
販売価格 (円／基)	600,000	650,000
1 基当変動費 (円／基)	241,500	147,000
1 基当限界利益 (円／基)	358,500	503,000
1 基当限界利益 (円／基・1hr)	717,000	1,676,666
個別固定費	45,000,000	40,000,000
共通固定費	440,000,000 円	

製品 X の直接作業時間 1 時間当たりの限界利益

$$= 358,000,000 / 0.5 = 717,000 \text{ 円}$$

製品 Y の直接作業時間 1 時間当たりの限界利益

$$= 503,000,000 / 0.3 = 1,676,666.66 \cdots \text{円}$$

以上から、単位当たりの限界利益が高く、個別固定費が低い製品 Y を優先して生産する。

つまり、製品 X 最大個数算出後、製品 Y 最低個数を計算する。

制約条件①総販売量数量制限

$$X / (X + Y) \geq 0.25 \rightarrow \therefore Y \leq 3X$$

制約条件②直接作業時間上限

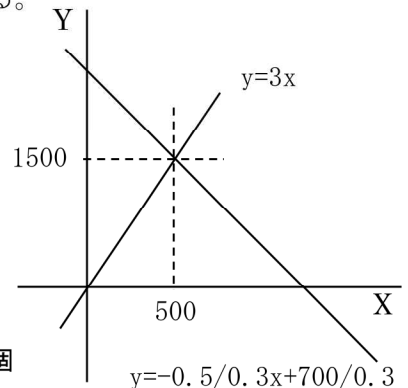
$$0.5X + 0.3Y \leq 700 \rightarrow \therefore Y \leq -0.5/0.3X + 700/0.3$$

条件式①を条件式②に代入すると、

$$0.5X + 0.9X \leq 700 \rightarrow \therefore X \leq 500 \rightarrow \text{製品 X 最大 500 個}$$

製品 Y 必要最低販売数量

$$Y \geq 500 \times 3 \rightarrow \therefore Y \geq 1,500 \rightarrow \text{製品 Y 最低 1,500 個}$$



総利益額

= 製品 X 限界利益 × 製品 X 最大販売数量

+ 製品 Y 限界利益 × 製品 Y 最低販売数量 - 総固定費

$$= 358,500 \times 500 + 503,000 \times 1,500 - 45,000,000 - 40,000,000 = 440,000,000$$

$$= 408,750,000 \text{ 円}$$

第3問(設問1)・(設問2)・(設問3) (配点 25 点)

Step1 題意

(設問1) 設備 Z の売却によるキャッシュフローについて求めている。

(設問2) 新設備の投資により得られる各年末のキャッシュフローを求めている。

(設問3) 加重平均資本コストを 4% とした場合の正味現在価値と採否を求めている。

なお、キャッシュフローの計算においては税金を考慮し、最終的な解答においては円単位で解答すること、という指示に注意したい。

Step2 解答の考え方・導き方

(設問1)

設備 Z は、初期投資額は 60,000 千円、減価償却は耐用年数 4 年、残存価額をゼロとする定額法で行い、耐用年数終了時 6,000 千円で売却できる。D 社は黒字経営を続けており、税率は 30% という条件より、売却によるキャッシュフローを計算する。

売却 C F

$$= \text{売却額} \times (1 - \text{税率})$$

$$= 6,000,000 \times (1 - 0.3) = 4,200,000 \text{ 円}$$

(設問2)

ここでは、新設備Zの投資案によって得られる各年末のキャッシュフローを求める。与えられた条件をしっかりと把握し、それを基に簡易損益計算書および簡易キャッシュフロー計算書を作成し、ミスなく計算したい。

設問の条件

- ・1基当たり300千円で販売する予定で、4年間にわたり毎年300基販売できる。すなわち、年間売上高収入は每期9,000千円得られる。
- ・変動製造費は、1基当たり120千円で、年間36,000千円である。
- ・現金支出を伴う業務費用は30,000千円である。
- ・設備Zについては、D社が年間2,400千円の賃借料で近隣企業に貸している減価償却済みの倉庫を工場として利用し据え付ける予定である。すなわち、機会費用2,400千円が発生する。
- ・新設備の投資額は、60,000千円であり、×1年度期首に行う。なお、耐用年数4年、残存価額はゼロ、定額法による減価償却で下記のようなになる。
減価償却費（耐用年数4年）
＝新設備の投資額60,000千円／4＝15,000千円
- ・4年後の処分価額は6,000千円と予想される。つまり、×4年度には売却益が6,000千円生じる。
以上の条件を整理して下記の「計算方法」のように損益計算書を作成し、キャッシュフローを算出する。

①損益計算書の形式で設問から得られた情報を整理し税引前利益を算出する。(単位:円)

	第1期	第2期	第3期	第4期
売上高	90,000,000	90,000,000	90,000,000	90,000,000
変動費	36,000,000	36,000,000	36,000,000	36,000,000
現金支出固定費 (業務費用)	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000
機会費用	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
減価償却費	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000
特別利益	0	0	0	6,000,000
税引前利益	6,600,000	6,600,000	6,600,000	12,600,000
法人税	1,980,000	1,980,000	1,980,000	3,780,000
税引後利益	4,620,000	4,620,000	4,620,000	8,820,000

②キャッシュフロー計算書のパターンを利用してフリーCFを計算する。(単位:円)

		第1期	第2期	第3期	第4期
営業	税引前利益	6,600,000	6,600,000	6,600,000	12,600,000
	減価償却費	15,000,000	15,000,000	15,000,000	15,000,000
	特別利益	0	0	0	-6,000,000
	運転資本増減	-9,000,000	0	0	9,000,000
	小計	12,600,000	21,600,000	21,600,000	30,600,000
	法人税	-1,980,000	-1,980,000	-1,980,000	-3,780,000
	営業CF合計	10,620,000	19,620,000	19,620,000	26,820,000
投資	機械装置 売却収入	0	0	0	6,000,000
フリーCF		10,620,000	19,620,000	19,620,000	32,820,000

※運転資本：設備 Z への初期投資以外のキャッシュフローは各年末に生じるものとするという与件より、運転資本の増加は第 1 期に発生したと考える。

(設問3)

(設問 2) で算出した(期待)フリー C F を基に、設備 Z の導入案の正味現在価値(N P V)を計算し、投資の採否について解答する。

正味現在価値

$$\begin{aligned} &= -\text{投資額} + \text{第 1} \sim \text{4 期 C F 合計正味現在価値} \\ &= -60,000,000 + 10,620,000 \times 0.962 \\ &\quad + 19,620,000 \times (0.925 + 0.889) + 32,820,000 \times 0.855 \\ &= 13,868,220 \text{ 円} \geq 0 \end{aligned}$$

正味現在価値がプラスで投資経済性が高いため、設備 Z を採用するのが望ましいとの結論になる。

第4問(設問1)・(設問2)・(配点 20 点)

Step1 題意

(設問1) D社がとるべき資金調達手段について、財務状況を踏まえながら、理由とともに述べることを求めている。

(設問2) D社が新商品を EU 諸国に向けて販売する場合に直面する財務的リスクと具体的な対処について求めている。

Step2 解答の考え方・導き方

(設問1)

財務状況を踏まえることに留意して、第 1 問で解答した経営比率分析の結果を根拠として解答したい。

- ・ D社は自己資本比率が 82.13%と、同業他社(65.88%)との比較においても高く、長期安全性が優れている。一方で、現金預金が過少である。

▲つまり…

自己資本比率が高く長期安全性が高い

▲とるべき資金調達手段は

支払利息による節税効果が得られる長期借入金

調達コストが不要な内部留保の活用

とるべき資金調達手段については、1 次試験の財務・会計で学習した外部金融と内部金融の両面から展開したい。

(設問2)

EU諸国に向けて販売する場合に直面する財務的リスクと対処法について、解答するにあたり、事例文のヒントの有無を確認する。

- ・EU諸国での市場調査を行ったところ、十分に商機があることが分かり、新製品の本格的な製造・販売に着手しようと考えている。(第3問)

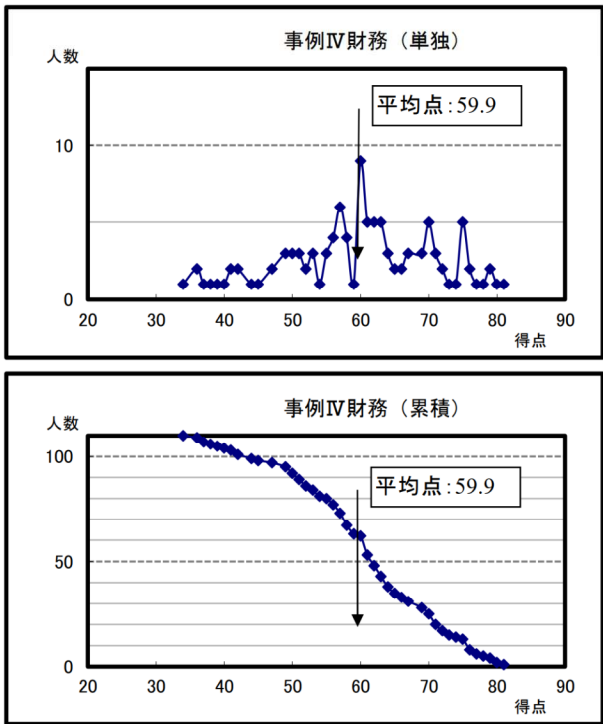
▲つまり…

財務リスクは、為替の変動リスク

▲とるべき対処法は

ユーロ建て為替予約・プットオプション

今回の事例では、事業のノウハウ不足等については特に指摘がなかったため、為替の変動リスクについて解答すれば、合格点を確保できると考える。



事例Ⅳ 財務 合計得点集計

点数	人数	比率	累積	点数	人数	比率	累積
100	0	(0%)	(0%)	49	3	(3%)	(86%)
99	0	(0%)	(0%)	48	0	(0%)	(86%)
98	0	(0%)	(0%)	47	2	(2%)	(88%)
97	0	(0%)	(0%)	46	0	(0%)	(88%)
96	0	(0%)	(0%)	45	1	(1%)	(89%)
95	0	(0%)	(0%)	44	1	(1%)	(90%)
94	0	(0%)	(0%)	43	0	(0%)	(90%)
93	0	(0%)	(0%)	42	2	(2%)	(92%)
92	0	(0%)	(0%)	41	2	(2%)	(94%)
91	0	(0%)	(0%)	40	1	(1%)	(95%)
90	0	(0%)	(0%)	39	1	(1%)	(95%)
89	0	(0%)	(0%)	38	1	(1%)	(96%)
88	0	(0%)	(0%)	37	1	(1%)	(97%)
87	0	(0%)	(0%)	36	2	(2%)	(99%)
86	0	(0%)	(0%)	35	0	(0%)	(99%)
85	0	(0%)	(0%)	34	1	(1%)	(100%)
84	0	(0%)	(0%)	33	0	(0%)	(100%)
83	0	(0%)	(0%)	32	0	(0%)	(100%)
82	0	(0%)	(0%)	31	0	(0%)	(100%)
81	1	(1%)	(1%)	30	0	(0%)	(100%)
80	1	(1%)	(2%)	29	0	(0%)	(100%)
79	2	(2%)	(4%)	28	0	(0%)	(100%)
78	1	(1%)	(5%)	27	0	(0%)	(100%)
77	1	(1%)	(5%)	26	0	(0%)	(100%)
76	2	(2%)	(7%)	25	0	(0%)	(100%)
75	5	(5%)	(12%)	24	0	(0%)	(100%)
74	1	(1%)	(13%)	23	0	(0%)	(100%)
73	1	(1%)	(14%)	22	0	(0%)	(100%)
72	2	(2%)	(15%)	21	0	(0%)	(100%)
71	3	(3%)	(18%)	20	0	(0%)	(100%)
70	5	(5%)	(23%)	19	0	(0%)	(100%)
69	3	(3%)	(25%)	18	0	(0%)	(100%)
68	0	(0%)	(25%)	17	0	(0%)	(100%)
67	3	(3%)	(28%)	16	0	(0%)	(100%)
66	2	(2%)	(30%)	15	0	(0%)	(100%)
65	2	(2%)	(32%)	14	0	(0%)	(100%)
64	3	(3%)	(35%)	13	0	(0%)	(100%)
63	5	(5%)	(39%)	12	0	(0%)	(100%)
62	5	(5%)	(44%)	11	0	(0%)	(100%)
61	5	(5%)	(48%)	10	0	(0%)	(100%)
60	9	(8%)	(56%)	9	0	(0%)	(100%)
59	1	(1%)	(57%)	8	0	(0%)	(100%)
58	4	(4%)	(61%)	7	0	(0%)	(100%)
57	6	(5%)	(66%)	6	0	(0%)	(100%)
56	4	(4%)	(70%)	5	0	(0%)	(100%)
55	3	(3%)	(73%)	4	0	(0%)	(100%)
54	1	(1%)	(74%)	3	0	(0%)	(100%)
53	3	(3%)	(76%)	2	0	(0%)	(100%)
52	2	(2%)	(78%)	1	0	(0%)	(100%)
51	3	(3%)	(81%)	0	0	(0%)	(100%)
50	3	(3%)	(84%)	合計	110	(100%)	(0%)

事例Ⅳ 財務 設問別得点集計

※優先度(得点獲得優先度)＝平均点／配点×100

点数	第1問(設問1) (配点 10 点)			第1問(設問2) (配点 15 点)			第2問(設問1) (配点 12 点)			第2問(設問2) (配点 6 点)			第2問(設問3) (配点 12 点)		
15				0	(0%)	(0%)									
14				0	(0%)	(0%)									
13				0	(0%)	(0%)									
12				12	(11%)	(11%)	67	(61%)	(61%)				6	(5%)	(5%)
11				25	(23%)	(34%)	0	(0%)	(61%)				0	(0%)	(5%)
10	78	(71%)	(71%)	41	(38%)	(72%)	0	(0%)	(61%)				0	(0%)	(5%)
9	26	(24%)	(95%)	1	(1%)	(72%)	1	(1%)	(62%)				2	(2%)	(7%)
8	0	(0%)	(95%)	19	(17%)	(90%)	1	(1%)	(63%)				1	(1%)	(8%)
7	4	(4%)	(98%)	9	(8%)	(98%)	6	(5%)	(68%)				14	(13%)	(21%)
6	1	(1%)	(99%)	2	(2%)	(100%)	1	(1%)	(69%)	62	(56%)	(56%)	0	(0%)	(21%)
5	0	(0%)	(99%)	0	(0%)	(100%)	14	(13%)	(82%)	1	(1%)	(57%)	0	(0%)	(21%)
4	0	(0%)	(99%)	0	(0%)	(100%)	1	(1%)	(83%)	0	(0%)	(57%)	2	(2%)	(23%)
3	1	(1%)	(100%)	0	(0%)	(100%)	0	(0%)	(83%)	3	(3%)	(60%)	1	(1%)	(24%)
2	0	(0%)	(100%)	0	(0%)	(100%)	0	(0%)	(83%)	1	(1%)	(61%)	3	(3%)	(26%)
1	0	(0%)	(100%)	0	(0%)	(100%)	18	(16%)	(99%)	32	(29%)	(90%)	24	(22%)	(48%)
0	0	(0%)	(100%)	0	(0%)	(100%)	1	(1%)	(100%)	11	(10%)	(100%)	57	(52%)	(100%)
合計	110	(100%)		109	(100%)		110	(100%)		110	(100%)		110	(100%)	
平均点	9.6			9.8			8.7			3.8			2.2		
優先度	96			65			73			64			18		

点数	第3問(設問1) (配点 5 点)			第3問(設問2) (配点 14 点)			第3問(設問3) (配点 6 点)			第4問(設問1) (配点 10 点)			第4問(設問2) (配点 10 点)		
14				31	(28%)	(28%)									
13				1	(1%)	(29%)									
12				0	(0%)	(29%)									
11				0	(0%)	(29%)									
10				12	(11%)	(40%)				0	(0%)	(0%)	0	(0%)	(0%)
9				2	(2%)	(42%)				0	(0%)	(0%)	0	(0%)	(0%)
8				0	(0%)	(42%)				6	(5%)	(5%)	6	(5%)	(5%)
7				3	(3%)	(45%)				64	(58%)	(64%)	60	(55%)	(60%)
6				0	(0%)	(45%)	26	(24%)	(24%)	31	(28%)	(92%)	33	(30%)	(90%)
5	81	(74%)	(74%)	0	(0%)	(45%)	0	(0%)	(24%)	9	(8%)	(100%)	8	(7%)	(97%)
4	1	(1%)	(75%)	0	(0%)	(45%)	0	(0%)	(24%)	0	(0%)	(100%)	3	(3%)	(100%)
3	0	(0%)	(75%)	0	(0%)	(45%)	15	(14%)	(37%)	0	(0%)	(100%)	0	(0%)	(100%)
2	8	(7%)	(82%)	6	(5%)	(50%)	45	(41%)	(78%)	0	(0%)	(100%)	0	(0%)	(100%)
1	11	(10%)	(92%)	42	(38%)	(88%)	19	(17%)	(95%)	0	(0%)	(100%)	0	(0%)	(100%)
0	9	(8%)	(100%)	13	(12%)	(100%)	5	(5%)	(100%)	0	(0%)	(100%)	0	(0%)	(100%)
合計	110	(100%)		110	(100%)		110	(100%)		110	(100%)		110	(100%)	
平均点	4.0			6.0			2.8			6.6			6.5		
優先度	79			43			47			66			65		

